

まーらいおん 様
愛用マシン: エクール CP


助演女優賞

今から 34 年前。まだ小学生だった私は突然母に呼ばれた。訪問販売が当たり前の時代で、母と販売員らしき方のそばに、真新しいボタンがたくさんついた最新式のコンピューターマシンが控えめに座っている。母も 13 歳の時に祖母からマシンを買ってもらったらしく、この真新しいマシンをプレゼントしてくれるらしい。

これが、私とジャノメマシンとの“はじめまして”だった。当時はまだ昭和。そして私は小学生で、欲しかったわけではなく自動的に身の丈に合わない価値のマシンを与えられる。でもこの出会いは、のちの私の人生に大きな影響を与える。

私は、あっという間にマシンに恋をした。学校の帰り道、本屋に寄り道し手芸や洋裁の本を立ち読みする。中学生のお小遣いでは手が届かないのは分かっているながら、布屋さんに出かけて布を引っ張り出して広げ手触りを確認する。『この布であのバックを作ったら…』と、その妄想が至福で、作っている自分を思い浮かべては、出来上がったものを身につける自分を想像しては、幸せな気持ちになっていた。もちろん作りたい物があると何時間でもマシンに向かう。完成するまで、早く仕上げたくて止まれない性格は今も同じ。

将来は自分で作ったウェディングドレスを着たい…そんな小さな夢も持っていた。ただ、当時は勉強もあり、部活もあり、忙しい学生生活の中で、段々とマシンから遠ざかってしまったのだ。



もうひとつミシンから遠ざかった理由は、父の死だった。17歳の時に父の病気が発覚してからは、何も手につかず、余命宣告を生き抜こうとする父に寄り添うことに必死で、ミシンを楽しむ余裕はなくなってしまった。思い返せば、大学時代は、一度もミシンを触らなかったかもしれない。家の中で一人でミシンに向かうと、子供の頃の楽しい記憶と共に辛い記憶も蘇ってしまうから。失ってしまったもう取り戻せないその思い出は、当時の私を暗闇で包んでしまいそうで、だから、ミシンを封印することで自分を保っていたのだろう。

大学を卒業し、幼稚園教諭になった私は、仕事の中でミシンが必要な場面に遭遇する。数年ぶりにミシンを動かすと、なんと、ミシンがうまく動かない。購入してから約15年が過ぎていた。修理に出すもダメで、仕方なく新しい2代目ミシンを購入することにした。それでも、仕事に必要な機会が終われば、ミシンはまた蓋をされて部屋の隅に置かれていた。全く存在感なく。

それからどのくらいの月日が流れたらだろう。私は結婚し、夫の転勤でシンガポールに住むことになり3人の母になった。そして運命の出会いはやってくる。たまたま同じマンションに住むママ友達が洋裁好きで、ぐいぐい私をミシンの世界に連れ戻したのだ。彼女の洋裁部屋には、ロックミシンとミシンが綺麗に並べられて存在感を放っている。まさに、昔の私の憧れていた風景がそこにあった。彼女の強い推しのおかげで、遂に、部屋のクローゼットの中で埃を被り存在すら忘れていたミシンは、再び表舞台に現れる。

友人に推されるがまま娘のワンピースを縫い始めた時、胸の中になんとも言えない感情が込み上げてきた。昔の感覚が、無意識に勝手に、そして瞬時に私の両手に戻った。ミシン針の音と振動は、17歳で止まった私の記憶に繋がり、その後の封印してきた感情を包み込み癒していく。心の中に何とも言えない温かい優しい気持ちが湧き上がり、涙がほほを伝った。父の病気を通してできてしまった母との溝も、ひと針ごとに昇華されていくようであった。

『もう大丈夫』

私が、私の人生に自信を取り戻した瞬間だったかもしれない。大袈裟だけど。

人生の中には、不必要なものはなく、そして自分の人生を生きるためのキーワードが溢れていると今の私は確信している。そう、まとめると私の人生のキーワードは『ミシン』なのだ。ミシンは、私の成長を見守り支え、そして、人生のターニングポイントにそこに居てくれた。私の人生を映画にしたならば、ミシンは助演女優賞を受賞するかもしれない…。そんなことを考えながら、私は今日も、さっさと家事を終えミシンの前に座る。この先の私の夢は、『洋裁好きなおばあちゃん』になること。子供達や孫たちが、私を思い出すときには必ずミシンとセットであることは言うまでもない。

この先の人生も、ミシンと共に南国のシンガポールでひと針ひと針私の人生を彩っていきたい。そして、何よりも私にミシンをプレゼントしてくれた母に『ありがとう』の言葉を贈りたい。いろんな出来事があり、母も傷つき苦しみあがいてきたはずである。私にとってのミシンのような存在が、母にもあってくれるのいいのだが。そして、もちろん、このように私の心を整理する機会を与えてくれたジャンOMEさんへも感謝を表したい。



JANOME
100
YEARS
since 1921